

いきいき健康術 第57回

『脳梗塞にならないために』

このコーナーは、町立病院・診療所の医師や専門職員がみなさんにお届けする健康情報コーナーです。今回の担当は平成二十四年四月から京丹波町病院長に就任された前田武昌先生。生活習慣病などの病気に関連して発症するリスクが高まる脳梗塞についてのお話です。

脳

梗塞はいつたん発症すると重い後遺障害を残すことも少なくありません。種々の原因で発症しますが、どうすれば発症のリスクを下げられるかを簡単に説明します。

脳梗塞の原因は主に二つあります。一つは動脈硬化、もう一つは心原性脳梗塞です。動脈硬化とは、高血圧、糖尿病、高脂血症、加齢、喫煙などが原因となって、アテローム硬化(粥状動脈硬化)や細動脈硬化が起こることです。高血圧の治療をすると脳卒中(脳梗塞と脳出血)の発生を約四割減少させる効果があると報告されています(年齢により多少異なりますが、一般に収縮期血圧が一四〇mmHg以上を高血圧とします)。

糖尿病のある人と無い人では脳卒中になる率は約四倍と言われています。

高脂血症については、治療薬の内服で血中コレステロールを下げることににより脳卒中の発症や再発を二―三割減少させる効果があります。喫煙は少量喫煙(十本未満/日)でも非喫煙者と比べ二倍の発症率があります。

心原性脳梗塞とは、心臓でできた血栓(血のかたまり)が脳の血管で詰まって起こる脳梗塞で、その約半数



院長 前田 武昌先生(京丹波町病院)

は心房細動が原因です。六十才を超えると心房細動の発症する確率が急に増加します。治療せずに放置すると五―一〇%前後の人が脳梗塞になりますが治療により三分の一に低下すると言われています。

また、CTなどで偶然に見られる無症候性脳梗塞(症状の無い脳梗塞)のある方は、再梗塞を起こす危険が増加します。

以上色々な要因で脳梗塞は起こりますが、何らかのリスクのある方はかかりつけの先生と相談して治療することをおすすめします。

京丹波町病院では、毎月の第二・第四土曜日の午前中に内科と小児科の診療を行っています。
☎86-0220